

羽田発着枠政策コンテストの評価等に関する懇談会（第1回） 議事概要

1. 日 時 : 令和元年11月19日（火）9時30分～11時30分

2. 場 所 : 中央合同庁舎3号館 国土交通省11階特別会議室

3. 出席者（50音順、敬称略）

〔座 長〕 竹内健蔵

〔委 員〕 安藤和代、加藤一誠、矢ヶ崎紀子

〔事務局〕 航空ネットワーク部長、航空事業課長 他

4. 議事

（1）羽田発着枠政策コンテストの見直しに係る論点について

（2）その他

5. 議事経過

事務局より資料に基づき説明を行った上で、委員による質疑応答・意見交換がなされた。

【主なご意見】（→以下は事務局の回答）

＜政策コンテスト枠の拡大する対象路線について＞

- ・競争を促進するという観点から、地方路線全てを対象に広げることも方法の1つではないか。また、2つの都市セットで応募し0.5ずつもらう、あるいは春と秋で便の枠を持ち合うといった1便未満の提案を可能とすることも検討してはどうか。
- ・羽田便の旅客数が年間50万人か100万人かで対象路線を決めるのがひとつの目安かと思うが、極力公平性に配慮し、少便数路線に配慮するというコンテストの趣旨を踏まえ、現行は少便数路線を対象としていることから、50万人程度の路線を対象としてはどうか。
→御意見を参考に募集要綱案をお示ししたい。
- ・空港全体で賑わっている場合もあることから、羽田便で見るか、空港全体で見るかについても議論すべき。また、近年のLCCの台頭を見ると成田路線

も考慮することが必要。
→データを整理しお示ししたい。

<政策コンテスト枠の配分期限について>

- ・（当初の配分期限を3年に延長し、その期間中の取組の効果検証を行った上で、2年間の延長を可能とすることについて）一番いい方法ではないか。

<評価項目の追加・修正等について>

- ・評価基準に重複のある項目は整理するなど、簡素化すべきではないか。
- ・イベント等による短期的な需要増も考慮すべきであることから、長期的な施策の持続性の観点だけではなく、短期的な施策も評価すべき。
- ・「訪日外国人旅行者を地方に呼び込むための効果的な施策」を評価項目に追加することは賛成。また、外国人旅行者を呼び込むことを考えて欲しいというメッセージとして、配点は少し高めの方が良いのではないか。
- ・地方への外国人旅行者の誘客には、DMOをはじめとする受け手の地域の広域連携が重要になってくることから、評価項目にも反映すべき。

<配点のウェイトの見直しについて>

- ・評価項目を整理・追加するに当たり、配点のウェイトは見直すこととなるのではないか。

<新規路線又は1便・3便ルール路線を対象とした提案への配点について>

- ・公平性の観点も踏まえ、少便数路線は、1便から2便に増えると、旅客数等の伸び率という点でその効果が見えやすいことから加点すべき。

<現在の政策コンテスト枠路線を対象とした提案への配点について>

- ・既存路線は、5年前から既に取り組んでおり、今回応募する場合に施策が大幅に変わることもないことから、ディスインセンティブにならないように、過去の実績を踏まえ、利用拡大に効果的であることが実証されているものについては加点すべき。

<その他>

- ・現状分析と目標設定の因果関係について、分析した内容を精査する意味でも、どのような過程で分析を行っているのか提案書に書いておくことは必要。
- ・コンテスト枠の配分が未来永劫続くものではなく、状況によっては回収されることもあり得るということを既存の自治体も含め認識してもらいたい。
3年経過した際の間評価もしっかりやらせていただく。
- ・成田便も増えている中で、なぜ今羽田便が必要かしっかり説明できることは重要。
- ・航空機を使用し、国内周遊する外国人旅行者を増やすことを考えると、国際定期路線が直接就航する地方空港の路線数について整理しておくことが必要。また、直行便と比較し羽田経由便の方が有効であることが示せるのであれば、採点の際に考慮すべき事項となるのではないか。
- ・優良事例については、横展開していくことも必要であり、他の自治体が提案書を作成し応募をする際に参考にすることは大切と考える。

以上